

「道徳をどうとらえるか」 2015. 7. 25 (土) 10:00~17:30 神戸商科キャンパス

講習概要

道徳とは一体何か。道徳はいかに形成されるのか。人間の生活や社会の中で道徳がどのような機能・役割を果たしているのかなどについて、心理学・経済学・法律学の観点から論じる。

時間割

- 第 1 講 心理学からみた道徳
- 第 2 講 経済学からみた道徳
- 第 3 講 法律学からみた道徳

神戸商科キャンパスでは、平成 21 年度より毎年教員免許状更新講習を開講しています。今年度のテーマは、平成 30 年度より小・中学校で教科化される「道徳教育」。兵庫県立大学経済学部の教授陣が、心理学・経済学・法律学からみた道徳について講義を行いました。講習前に受講者の皆様に記入いただいたアンケートより、「この講習を選ばれた理由」を一部ご紹介します。



◆この講習を受講した理由はなんですか？

- ・現在、大学で学生と接する中でモラルの低下に危機感を覚えるから。
- ・教育現場で働いてきて多くの生徒と接してきましたが、最近の生徒の公共心や道徳心の乏しさを感じるため。
- ・現代社会において、道徳というものが失われてきているように感じ、教育者としてもう一度道徳を見直したいと思い、受講を希望しました。
- ・道徳の問題を綺麗ごとで片づけるのではなく、本当に子どもたちの成長に役立つものにしたいから。
- ・倫理を担当するととても苦しみます。専門ではないので、知識・理解が不十分であるという以前に、日ごろは物事を感覚的、曖昧にとらえている自分自身に気付くからです。人間にとって道徳とは何なのかということについて、少しでもアプローチできればと思います。
- ・小中学校での「道徳」の教科化を前に、高校における「道徳」のとらえ方を多面的にアプローチするという点に興味を覚えたため。

「科学の最前線 2015」 2015. 8. 20 (木) 10:30~18:00 播磨理学キャンパス

講習概要

「電気を流す有機物」 有機化合物は一般に絶縁体とされてきたが、近年は絶縁体から導体を作れるようになってきている。本講習では当該分野の最前線について述べる。

「動物の再生能力(1)(2)」 個体発生は1つの受精卵から始まり、ゲノムにコードされている発生プログラムによって完成する。一方で、発生を完了した成体では、失われた組織・器官を再生する能力は様々である。本講習では、最新の再生研究を紹介する。

時間割

- 第 1 講 電気を流す有機物
- 第 2 講 動物の再生能力(1)
- 第 3 講 動物の再生能力(2)

播磨理学キャンパスでは、平成 21 年度より毎年、中学校・高等学校の理科教諭向けに、教員免許状更新講習を開講しています。今年度も、兵庫県立大学大学院物質理学研究科、生命理学研究科の教授陣が、科学の最前線の分野について講義を行いました。講習前に受講者の皆様より記入いただいたアンケートより、「この講習を選ばれた理由」を一部ご紹介します。



【写真提供】生命理学研究科 梅園教授

◆この講習を受講した理由は何ですか？

- ・絶縁体から導体を作る、最新の再生研究が学べるから。
- ・日々の授業に追われる中で、つつい最新の情報に疎くなっている。直接の専門(物理)ではないが、最新の研究に触れることでリフレッシュし、改めて理科(化学)の面白さを生徒に伝えたいと思う。
- ・できれば高等学校の授業現場で伝えることのできるエピソードなど教えていただければ有難い。
- ・中学生にも理解できる楽しい情報を知りたい。
- ・物理分野には苦手意識があり、生徒達に魅力ある授業を行いたいと思ったから。

**講習概要**

児童・生徒に対する防災教育に関する基礎的知識の習得を目的とし、  
①「防災教育とは？」②災害メカニズムの理解 ③防災・減災のための情報活用 ④防災教育教材の体験について講義する。

**時間割**

- 第1講 防災教育とは
- 第2講 災害メカニズムの理解
- 第3講 防災・減災のための情報活用
- 第4講 防災教育教材の体験

防災教育研究センターでは、平成 25 年度より毎年、教員免許状更新講習を開講しています。防災教育研究センターは、阪神・淡路大震災で兵庫県に蓄積された知識・知識・ノウハウを次世代及び他地域へ伝えていくため、平成 24 年度設置されました。講習では、阪神・淡路大震災後も被災地で復興に携わってこられた先生方による講義と、第4講「防災教育教材の体験」ではカードゲームを通して、受講者の皆様に校種や担当教科を超えてグループディスカッションをしていただきます。受講後のご感想・ご意見を一部ご紹介します。



**自助・共助・公助**

子どもたちには教室での学びだけでなく、様々なことに取り組む中で、時には失敗するという経験も大切にしていきたい。また、自分の安全は自分で守る（自助）、さらに他者の安全にも配慮することができる（共助）意識を育てていかななくてはならないと強く考えるようになりました。

**地域との共生**

災害が発生して、実際に学校が避難場所になる場合がある。そんなとき、自分のコミュニケーション能力は今のままで大丈夫かと考えました。避難所等の運営をしていくのに、合意形成のプロセスが大切だと分かったので、そうした力を高めていく方法を知りたいと感じました。

**被災者支援と教育に通底するもの**

私たちが学校で日々直面している「いじめ」や「不登校」にしても、人生で大きな負荷を背負う「被災」にしても、そこに共通するのは、結局は当事者が前に向かって一步を踏み出すエネルギーを持ってないことには、いくら物質的な支援があっても困難を克服していけないということだ。心のエネルギーが枯れるほど辛い思いをしている人にとって、現状を変えていこうという前に、先ず人に受容・肯定されて、心の中に再生のエネルギーをためる時間が大切なのだと気付いた。

**G-motty**

講義で話しておられた G-motty について、暮らしている街の地名、地形や地盤、災害時の想定など、いろんなことを調べたり出来ることに興味を持ちました。

- ◆ 講義を受講して得られた新たな発見は何ですか？
- ◆ もっと知りたいと感じたこと、やってみようと思うことは何ですか？

**自分の手でハザードマップを描いてみる**

自分の街をフリーハンドで描くというのは面白かった。自分たちでハザードマップを作り、そこに目印や街の特長を書き込んでいけば、楽しみながら街について知ることができて、災害に対してどう行動するか想像しやすくなる。コンピューターを活用して地形を知ることができれば、より地域への理解も深まる。防災・減災とは、自分たちの住む街について知り、考え、被災時にどう行動するか、街や人がどんな状態になるか等を想像することだと気付いた。それを子供たちや周りの人たちに伝えたいと思う。

**子ども達に震災の教訓を伝えていく**

私が勤務している小学校では、1月17日に追悼集会すら行っていない。阪神淡路大震災のあったこの日に防災訓練を行っているが、なぜこの日にやるかというこちらの思いが子どもたちに伝わっていないように感じている。神戸復興を願うシンボル曲「幸せ運べるように」も知らない子どもたちである。神戸の歌とともに、東北の歌もぜひ校内放送で繰り返し流せるように、職員と話し合ってみようと思っている。  
(<http://www.shiawasehakoberuyouni.jp>)

**県大生のボランティア活動**

兵庫県立大学の学生ボランティア活動について、学生たちが被災者の話に耳を傾け、困難な状況にある人々と共にあろうとすることで、被災者の方々が再び自分たちの地域への愛情や誇り、自尊感情を取り戻し、主体的に復興に取り組んでいけるようになった過程を聴いて、その活動と継続力に頭が下がる思いです。これからも頑張ってもらいたいです。

**クロスロードゲーム**

第4講のグループワークの一問一答、本当に判断に困りました。救援物資 2,000 個を 3,000 人に... 実際、現場で十分考えられることであり、担当者や責任者の判断の難しさを感じました。



G-motty は兵庫県立大学防災教育研究センター・浦川豪准教授と北九州市等が共同開発した地域情報ポータルサイトです。

詳しくは[こちらから](#)↓

- 北九州市 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/soumu/15300025.html>
- G-motty(地域情報ポータルサイト) <http://www.g-motty.net/menu/>

## 講習概要

児童・生徒に対する地域教育に関する基礎的知識の習得を目的とし、以下の内容について講義する。①地域資源とは？②地域資源の活用について(A.地域の自然資源活用-地質・地形資源とその活用例)(B.地域の自然資源活用-コウトリの野生復帰と地域資源化)(C.地域の社会・文化資源活用)③A. B. Cのプログラムごとの実習・演習

## 時間割

第1講 地域資源とは？  
第2講 地域資源の活用について  
第3講 実習・演習

豊岡ジオ・コウトリキャンパスでは、平成27年度初めて教員免許状更新講習を開講しました。地域資源マネジメント研究科の教授陣総勢10名が講義を行いました。第2講より「地球科学(ジオ)」「生態学(エコ)」「人文社会科学(ソシオ)」の3つの分野に分かれて受講いただき、第3講ではプログラムごとに野外実習・演習も行われました。受講者から寄せられたご感想を一部ご紹介します。

## ◆受講者のご意見・ご感想

- ・地域資源学の基本的なとらえ方の講義を受けてから、実地見学という展開が分かりやすかった。
- ・教授から優しく気軽に声をかけていただいた。丁寧な指導だった。
- ・地域で子どもをどのように教育していくか、重要な視点を考えることができた。
- ・少人数でアットホームな雰囲気だった。
- ・一日で結構な量を学ぶことができた。
- ・「ふるさと学習」の聞き書きの手法を、学校現場でも採り入れることができると感じた。
- ・遠方から受講したので、受付時間が午前10時までというのが良かった。
- ・但馬で免許状更新講習が受けられるところが殆どないため、1講座だけでなくいろいろ開講してほしい。

## ◆講義と野外演習・実習の様子

全体講義



ジオ座学



ソシオ座学



エコ座学



エコ野外



エコ野外2



エコ野外3



全体発表

